

Overview: アウトライン I は、大祭司としてのキリストは、私たちのために天でとりなしをしておられることを示します。Ⅲは、キリストの天の務めにおけるキリストのとりなしに私たちがตอบสนองを言っており、主題と同じです。Ⅱは私たちの霊の中のその霊のとりなしについて述べています。自分の霊に戻り、その霊のとりなしを経験することは、キリストの天のとりなしと私たちの応答の間を結びつける重要な秘訣です。

I. 王である神聖な大祭司としてのキリストは、私たちのためにとりなしています:

- A. キリストが私たちの大祭司として構成されたのは、何もかも破壊することのできない不朽の命の力にしがってでした。この命は、終わりのない命であり、永遠で、神聖な、非受造の命、死とハデス[陰府]のテストを通過した復活の命です。
 - B. キリストは永遠に生きていて、変わることがないので、程度と時間と空間において、極みまで私たちを救うことができます。
 - C. ヘブル第7章25節において、「極みまで」という表現は、「完全無欠に、全く、完全に、終わりまで、永遠に」を意味します。
 - D. キリストが私たちを完全無欠に救うことができるのは、彼が私たちのためにとりなしているからです。彼は、私たちの永久の、不変の、永遠のとりなす方です:
2. 彼は私たちのために、神の御前に現れ、祈っています。それは、私たちが完全に救われて、神の永遠の定められた御旨の中へと十分にもたらされるためです。
 3. キリストは、絶えず私たちのためにとりなしています。最終的に、彼のとりなしは、私たちに打ち勝ち、私たちを征服し、私たちを救います。
 4. 私たちは、キリストがいつも私たちのためにとりなしていることを信じて、彼を通して神に進み出るべきです。
 5. キリストは、私たちを極みまで救うことができます。なぜなら、彼は天において生きているだけでなく、私たちの中でも生きているからです:
 - b. 彼は、天において生きていて、私たちのためにとりなし、私たちの案件を顧みえています。しかし、このことの実際は、彼の霊によって私たちの霊の中へと伝達されます。
 - c. 私たちは、この天的なビジョンを見て、私たちの大祭司を享受することを学ばなければなりません。そうすれば、私たちは恵みの御座であわれみを受け、時機を得た助けとなる恵みを見いだします。

II. ローマ第8章において、キリストは神の右で私たちのためにとりなしており、また、その霊は私たちの霊の中で私たちのためにとりなしています:

- A. キリストは私たちのために死んで、復活させられました。今や彼は天において、神の右で、私たちのためにとりなしています:
 1. 私たちのキリストは今日、最も高い天にいて、神の右で最も高い地位を持っています。
 2. キリストがとりなしているのは、私たちが栄光化されるためです。
 3. キリストは、究極的に完成されて昇天した神・人として、またからだのかしらとして、私たちのためにとりなしています。それは、多くの神・人である私たちが、反対やあらゆる種類の環境に打ち勝って、彼の無条件の愛の中で彼との結合の中に保たれるためです。
- B. 「その霊も私たちの弱さを担って助けてくださいます。なぜなら、私たちはどのように祈ったらよいかわからないのですが、その霊自ら言い難いうめきをもって、私たちのためにとりなして下さるからです」(26節):
 1. ここの弱さは、私たちがどのように祈ったらよいかわからないということです。私たちは、どのような種類の祈りを神が願っているのかわかりません。また私たちは、どのように祈るのかははっきりしていません。
 2. 私たちがうめく中で、その霊もうめき、私たちのためにとりなします。彼のとりなしはおもに、私たちが命における造り変えを経験して、命において成長し、子たる身分の円熟へと至り、それによって私たちが完全に神の長子のかたちに同形化されるためです。
- C. 「心を探る方は、その霊の思いが何であるかを知っておられます。なぜなら、彼は神にしたがって、聖徒たちのためにとりなして下さるからです」(27節):
 1. ここのその霊の思いは、私たちから独立したその霊の思いではなく、私たちの思いとミングリングされて、私たちの心の一部分となったその霊の思いです。

III. 私たちは、キリストの天の務めにおけるキリストのとりなしにตอบสนองする必要があります:

- A. キリストのとりなしは、私たちのตอบสนองを必要とします。私たちは、キリストのとりなしの生活にあずかり、キリストの天の務めにおけるキリストのとりなしの地上における反映となり、とりなすキリストの祈りを祈る必要があります。
- B. 私たちの祈りを通して、かしらであるキリストは道を得て、彼のからだを通して彼の行政を遂行します。
- C. 使徒第12章には、召会のとりなしの祈りがあります。コロサイ第1章9節から11節と第4章12節には、パウロとエパfrasのとりなしの祈りがあります:
 1. ペテロが獄にいたとき、「召会は、彼のために熱心に祈りを神にささげていた」(使徒12:5):
 - b. 召会は祈りによって、神と共に、邪悪な者であるサタンに対して、戦いを戦いました。
 2. パウロは、聖徒たちが「あらゆる霊的知恵と理解力において、神のみこころを知る全き知識で満たされ」(コロ1:9)るようにと祈りました:
 - b. 神のみこころは深遠なものであり、私たちがすべてを含むキリストを認識し、経験し、生きることと関係があります。私たちに對する神のみこころは、私たちがキリストを認識し、キリストを経験し、キリストを享受し、キリストを生き、キリストに私たちの命とパーソンになっていたくことです。
- D. 祈りの地位は、昇天の地位、すなわち、天的な地位です:
 1. もし私たちが天的な地位を離れるなら、祈りの地位を失います。
 2. 祈りの地位があれば、祈りの権威があります。祈りの地位は昇天であるので、祈りの権威も昇天です。
 3. 私たちが天的な地位と権威を持つとき、私たちの祈りは、神の行政となり、神のみこころの執行となります。

経験①: 大祭司キリストはあなたを極みまで救うことができる

この標準のモデル(神人イエス)が復活させられ、人性において生まれて神の長子となった時、彼は私たちを含めました(I ペテロ 1:3)。彼が人性の中で息子化された時、彼の復活の中で、私たちは神の子たちとして生まれました。私たちは時間を忘れる必要があります。天には時計はなく、永遠には腕時計はないでしょう。私たちはこれを理解することができないかもしれませんが、それを単純に受け入れるべきです。聖書の純粋な言葉によれば、キリストは復活させられた時、ご自身を命として私たちの中へと分け与え、私たちは再び生まれました。ご自身を命として私たちの中へと分け与えた後、キリストは完成の中へと、栄光の中へと入れられ、そこにおいて今、私たちの栄光化のためにとりなしておられます。

キリストは、私たちが極みまで救われるためにとりなしておられます。私は、キリストが私たちのためにとりなしておられるという多くのメッセージを聞いてきましたが、キリストは私たちが完成にもたらされるためにとりなしておられるというメッセージを一度も聞いたことがありません。多くの牧師たちは、キリストのとりなしに関するローマ人への手紙第 8 章 34 節とヘブル人への手紙第 7 章 25 節を用いて、困難の中にある者を慰めます。しかし、キリストがとりなしておられるのは、私たちが慰めを受けるためだけではありません。とりなしについてのそのような観念は低すぎます。キリストがとりなしておられるのは、私たちが栄光化され、彼の完成の中へと救われるためです。

中高生編

中高生であるあなたは、勤勉に勉強して、できる限りより良い大学にチャレンジし合格を目指してください。それぞれの度量に応じて、目標を決定すべきです。言い換えると、全員が東京大学に行けるわけではありませんが、より高い、チャレンジングな目標に向かって、前進することがとても大切な事です。

しかし、主の御言葉に従って、あなたの救いについて考える時、あなたは非常に驚くでしょう。ヘブル 7:25 こういうわけで、彼を通して神に進み出る者たちを、彼は極みまで救うことができます。 なぜなら、彼はいつも生きていて、彼らのためにとりなしておられるからです。

あなたが極みまで救われると言うのは、神の栄光の命が霊から魂、体へと完全に浸透することです。この極みまで救われることについて、神はどの信者についても、標準を下げたり、完成しないまま途中であきらめたりすることはありません。「極みまで救われる」とは、私たちの観点からすると、ハーバード大学を卒業する以上に難しいことです。あなたは自分の失敗や欠点を見ると、自分が極みまで救われることがとても信じられないと感じるかもしれません。しかし、ヘブル 7:25 の言葉を誰も無効にしたり、変更したりすることはできません。あなたがどう感じようと、神の言葉は変えられませんので、信仰によって、「極みまで救われる」、「栄光化される」ことを信じ受け入れてください。あなたができることは、積極的に主と協力して救いを加速させるか、あるいは不信仰によって、「極みまで救われる」ことを遅らせるかだけです。

あなたは学校での友人や先生との人間関係について、主を経験してください。クラスメイトの中には、あなたに言いがかりを付けてくる人や、どうしても気が合わず発言が一つ一つ癪(かん)に障る人がいると思います。また先生についても、あなたを嫌っている先生がいるかもしれません。実は主はこのような環境を用いてあなたの個性の中の特異性に触れ、あなたを造り変えようとしておられます。あなたは主に開いて、人間関係において、「主よ、私を極みまで救ってください」と祈ることができます。

経験②: まず神の王国と神の義を追い求め、天の王国の大使となる

祈りは私たちの思いを天にある事柄に置く唯一の方法です。私たちが祈ることによって思いを上にあるものに置くとき、さ細な事柄のために祈ることをしないでしょ。そうではなく、私たちの祈りはキリストの天のとりなし、務め、行政で占有されます。キリストは世界中の諸召会のためにとりなしておられるので、私たちもまた諸召会のために祈ります。私たちは主に私たちの生活におけるすべての小さな事柄を顧みていただくべきです。私たちの責任は、まず神の王国と神の義を追い求めることです。御父は私たちの必要を知っているので、私たちを顧み、私たちの必要を満たしてください。

マタイ 6:29 しかし、私はあなたがたに言う。栄華を極めたソロモンでさえ、これらの一つほどにも着飾ってはいなかった。 30 今日ここにあっても、明日は炉に投げ入れられる野の草を、神はこのように装ってくださるのだから、あなたがたにはなおさら、着せてくださらないはずがあるだろうか？ あなたがた信仰の小さい者よ、

31 こういうわけで、『何を食うか？ 何を飲むか？ 何を着ようか？』と言って、思い煩ってはならない。 32 なぜなら、これらの物はすべて、異邦人が切に求めているからである。あなたがたの天の父は、これらの物がすべてあなたがたに必要であることを、ご存じなのである。 33 むしろ、まず父の王国と父の義を求めなさい。 そうすれば、これらの物はすべて、あなたがたに加えられる。 34 こういうわけで、明日のことを思い煩ってはならない。 明日は明日自身が思い煩うからである。その日の苦勞は、その日だけで十分である。

私たちが祈りの時間に、私たちの思いを上にあるものに置くなら、私たちはキリストの天における務めの反映となります。私たちの祈りを通して、かしらであるキリストは道を得て、彼のからだを通して彼の行政を遂行します。私たちは祈るとき、地上で天の大使であって、神の王国の拡張です。しかしながら、私たちはうわさ話をしているとき、全く天の大使ではありません。私たちは祈っている時のみ、実際的に地上で天の王国の大使となります。

在職青年編

在職青年は、まず経済的に両親から独立すべきです。その後、召会と家族を霊的な面と経済的な面の両方で支える責任を担う必要があります。しかしこの責任を担うことにおいて、あなたは決して異邦人のような考えに基づいて行なってはいけません。異邦人と同じ経済観念(優先順位の第 1 は自分のため)を持っていると、結局、召会に対する負担を失い、神の祝福を失ってしまいます。神はあなたの日常生活の必要をご存知ですので、あなたは優先順位を、まずキリストと召会に置いて、そのことを祈ってください。そうすれば生活の必要はあなたに加えて与えられます。

兄弟の証: 神戸で最初に建てた本山集会所の建設の時、集会所のない日は毎晩建設現場の監督に行く必要がありましたので、午後 5 時 5 分(定時は 5 時)には会社を出て建設現場の様子を見に行っていました。サタンは、「そんなことばかりしていると会社を首になるんじゃないのか?」と言ってたびたび私を脅迫してきました。しかし私は召会の必要のために約 6 か月間、このように実行しました。4 月初めに建設が完成して、召会は集会所で集会をし始めました。驚いたことに会社では 3 月末に私の業績が評価され、また私が会社を辞めるのではないかと恐れて、私だけが昇進しました(その年は会社全体の業績が悪かったので、私以外は誰も昇進しませんでした)。「まず神の王国と神の義を追い求めれば、生活の必要はすべて加えて与えられる」との主の約束は真実です。ハレルヤ!

#6 キリストの天の務めにおけるキリストのとりなしにตอบสนองする

引用聖句

I. 王である神聖な大祭司としてのキリストは、私たちのためにとりなしています：

ヘブル7:24 しかしイエスは、永遠に存続するので、変わる事のない祭司職を持っておられます。25 こういうわけで、彼を通して神に進み出る者たちを、彼は極みまで救うことができるのです。なぜなら、彼はいつも生きていて、彼らのためにとりなしておられるからです。26 このように、聖く、悪巧みがなく、汚れがなく、罪人とは分離しており、天より高くなられた大祭司こそ、私たちにふさわしかったのです。

9:24 なぜなら、キリストは、まことのものの型である、手で造られた聖所にではなく、天そのものに入られたのであり、今や私たちのために、神の御顔の前に現れてくださったからです。

II テモテ1:9 神は私たちが救い、聖なる召しをもって召してくださいました。それは私たちのわざによるのではなく、彼ご自身の定められた御旨と恵みによります。キリスト・イエスの中で、もろもろの時代の前に私たちに与えられていたこの恵みは、エペソ3:11 神が私たちの主キリスト・イエスの中で立てられた、永遠の定められた御旨にしたがっているものです。

コロサイ3:1 こういうわけで、もしあなたがたがキリストと共に復活させられたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストがいて、神の右に座しておられます。

1:27 神は彼らに、異邦人の間にあるこの奥義の栄光の豊富がどんなものであるかを、知らせたいと願われました。それはあなたがたの内にいますキリストであり、栄光の望みです。

ヘブル4:14 こういうわけで、わたしたちは、天を通って行かれた大なる大祭司、イエス、神の御子を持っているのですから、その告白をしっかりと保持しようではありませんか。15 わたしたちの大祭司は、わたしたちの弱さに同情することのできない方ではなく、罪のないことは別にして、すべての面でわたしたちと同じように試みられたのです。16 ですから、わたしたちがあわれみを受け、また時機を得た助けとなる恵みを見いだすために、大胆に、恵みの御座に進み出ようではありませんか。

II. ローマ第8章において、キリストは神の右で私たちのためにとりなしており、また、その霊は私たちの霊の中で私たちのためにとりなしています：

ローマ 8:6 肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。…16 その霊ご自身、私たちの霊と共に、私たちが神の子供たちであることを、証してくださいます。

ローマ8:26 さらに、同じように、その霊も私たちの弱さを担って助けてくださいます。なぜなら、私たちはどのように祈ったらよいかわからないのですが、その霊自ら言い難いうめきをもって、私たちのためにとりなして下さるからです。27 心を探る方は、その霊の思いが何であるかを知っておられます。なぜなら、彼は神にしたがって、聖徒たちのためにとりなして下さるからです。

ローマ8:34 だれが罪に定めるのですか？ キリスト・イエスは死んで、さらに復活させられ、神の右で、私たちのためにとりなしておられます。…37 しかし、これらすべての事柄において、私たちが愛して下さった方を通して、私たちは勝ち得て余りがあります。

38 なぜなら、死も、命も、天使たちも、支配たちも、現在の事柄も、来たるべき事柄も、力も、39 高いものも、深いものも、他のどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスに

ある神の愛から、私たちが引き離すことはできないと、私は確信するからです。

ローマ12:2 またこの時代にかたどられてはいけません。むしろ、思いが新しくされることによって造り変えられなさい。それは、何が神のみこころであるか、すなわち何が善であって、喜ばれ、完全なものであるかを、あなたがたがわかまえるようになるためです。ヘブル8:1 今私たちが言っている事の要点はこうです。私たちにそのような大祭司がおられ、彼は天で威光ある方の座の右に着き、

III. 私たちは、キリストの天の務めにおけるキリストのとりなしにตอบสนองする必要があります：

使徒12:5 こうして、ペテロは獄中に監禁されていた。召会は、彼のために熱心に祈りを神にささげていた。

コロサイ1:9 こういうわけで、私たちがこの事を聞いた日から、あなたがたのために絶えず祈り、そして願い求めています。どうかあなたがたが、あらゆる霊的知恵と理解力において、神のみこころを知る全き知識で満たされ、10 主のものにふさわしく歩いて、すべての事で主を喜ばせ、あらゆる善いわざで実を結び、神を知る全き知識によって成長し、11 神の栄光の大能にしたがい、あらゆる力をもって力づけられ、喜びをもって忍耐と寛容の限りを尽くし、

コロサイ4:3 同時に、私たちのためにも祈ってください。それは、神が御言のために私たちに門を開いてくださって、私たちがキリストの奥義を語る事ができるためです（この奥義のために、私もつながれているのです）。

4:12 あなたがたのうち一人、キリスト・イエスの奴隷エパfrasが、あなたがたによく、彼はいつも祈りの中で、あなたがたのために奮闘しています。それは、あなたがたが完全に成長し、また神のみこころのすべてを十分に確信して立つためです。マタイ17:20 …まことに、私はあなたがたに言う。あなたがたが、一粒のからし種のような信仰を持っているなら、この山に、『ここからあそこに移れ』と言えば移るのである。そして、あなたがたにとって不可能なことは何もない。

マタイ18:18 まことに、私はあなたがたに言う。あなたがたが地上で縛るものはすべて、すでに天で縛られていたものであり、あなたがたが地上で解くものはすべて、すでに天で解かれていたものである。19 また、まことに、私はあなたがたに言う。あなたがたのうち二人が求めるどんな事でも、地上で調和一致するなら、それは天におられる私の父によって成就される。

I テモテ2:1 そこで、まず、私は勧めます。すべての人のために、願いと、祈りと、とりなしと、感謝とをささげなさい。

II テサロニケ3:1 最後に、兄弟たちよ、私たちのために祈ってください。主の言が、あなたがたの所でもそうであるように、速やかに宣べ伝えられ、栄光を得るように、エペソ1:17 どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の御父が、知恵と啓示の霊をあなたがたに与えて、あなたがたに彼を十分に認識させ、18 あなたがたの心の目が照らされ、神の召しの望みがどんなものであるかを、あなたがたが知るように。19 また神の力強い大能の活動にしたがって、信じるわたしたちに働く彼の力が、どんなに超越して偉大であるかを知るように。

マタイ6:10 あなたの王国が来ますように。あなたのみこころが天で行なわれているように、地でも行なわれますように。

エペソ6:18 すべての祈りと願い求めによって受け取りなさい。どんな時にも霊の中で祈り、すべての聖徒のために根気と願い求めの限りを尽くし、このために目を覚ましていなさい。

ヨハネ 12 章のマイルストーン: 命の結果と増殖

1. 命の結果—祝宴の家(召会生活の縮図)

1 過越の六日前に、イエスはベタニヤに來られた。そこには、イエスが死人の中から復活させたラザロがいた。2 その人々は、イエスのために晩餐を設けた。マルタは給仕をしていた。ラザロは、イエスと共に食卓に着いていた者の一人であった。3 その時マリヤは、非常に高価で純粋なナルドの香油—リトラ(約 330 グラム)を取って、イエスの足に塗り、自分の髪の毛で彼の足をぬぐった。するとその家は、香油の香りで満たされた。4 ところが、弟子の一人で、イエスを裏切ろうとしていたイスカリオテのユダが言った、5 「なぜこの香油を三百デナリで売って、貧しい人たちに与えなかったのか?」。6 彼がこう言ったのは、貧しい人々を顧みていたからではなく、彼は盗人であって、金入れを預かり、その中のものを持ち出していたからである。7 イエスは言われた、「するがままにさせておきなさい。彼女は私の葬りの日のために、それを取って置いたのだから。8 貧しい人々は、あなたがたといつも一緒にいるが、私はあなたがたといつも一緒にいるわけではないのだから」。9 その時ユダヤ人の大群衆は、イエスがそこにおられることを知って、イエスのためだけでなく、彼が死人の中から復活させたラザロをも見ようとしてやって來た。10 そこで祭司長たちは、ラザロをも殺そうと協議した。11 それは、ラザロのために多くのユダヤ人が去って行き、イエスの中へと信じたからである。

2. 命が死と復活を通して、召会のために増殖する

23 イエスは彼らに答えて言われた、「人の子の栄光が現される時が來た。24 まことに、まことに、私はあなたがたに言う。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それは一粒のままである。しかし、それが死んだなら、多くの実を結ぶ。…35 イエスは彼らに言われた、「なおしばらくの間、光はあなたがたの間にある。光がある間に歩きなさい。それは、暗やみがあなたがたに打ち勝つことのないためである。暗やみの中を歩く者は、自分がどこへ行くのかわかっていない。36 あなたがたは、光がある間に、光の子となるために、光の中へと信じなさい」。

3. 宗教の不信と盲目

40 「主は彼らの目を盲目にし、彼らの心をかたくなにされた。それは、彼らが目で見ず、心で理解せず、立ち返らず、私が彼らをいやすことがないためである」。…43 彼らは神の栄光よりも、人の栄光を愛したからである。

1 節の「ベタニヤ」は、「苦悩の家」を意味します。この時点で、主はユダヤ教の外におられました。彼の復活の命を通して、彼はベタニヤで一つの家を得られました。その所で彼は、祝宴を設け、安息と満足を持つことができました。この祝宴の家は、召会生活の縮図であり、召会の光景を描写しています。(1) 復活の命によって生み出された—ラザロ。(2) 清められた罪人で構成されている—らい病の人シモン。(3) 外側では苦悩している—ベタニヤ。(4) 内側では主の臨在の中で、主と共に祝宴にあずかっている(2 節)。(5) 姉妹のほうが兄弟よりも多い(2-3 節)。(6) さまざまな機能を持つ肢体がある。仕えている—マルタ、証しをしている—ラザロ、愛している—マリヤ(2-3 節)。(7) 偽りの者—ユダによって汚される(4 節)。(8) 宗教によって迫害される(10 節)。(9) テストであり、人を暴露する(6、10 節)。(10) 多くの信者をもたらす(11 節)。

召会生活は、神の家の生活です。それは、一見すると世の中の人の生活と同じよ

うに苦悩がありますが、もう一方で安息と満足のある祝宴の生活です。

1 コリント 10:13 あなたがたに臨んだ試みで、人の常でないものはありません。神は信実であって、あなたがたが耐えられないような試みに遭うことを許されません。むしろ、あなたがたがそれに耐えることができるようにと、その試みと共に、出ていく道をも備えてくださいます。

ルカ 15:23 また、あの肥えた子牛を引いて来て、ほふりなさい。食べて楽しむのではないか。24 私のこの息子が死んでいたのに生き返り、失われていたのに見つかったのだから。こうして彼らは楽しみ始めた。

主は様々な困難な環境を通して、私たちを成長させます。重要なことは、苦悩の中でも、主を享受し、苦難を乗り越える力を得る、あるいは苦難とともに主が用意された逃れる道を経験することです。ハレルヤ! 主に感謝します! ベタニヤの家(召会生活)は苦悩の家ですが、主はそこで祝宴を設けられ、私たちに安息と満足を与えます。私たちは召会生活の中に入って、祝宴の生活、キリストを食べ飲み享受する生活を維持すべきです。

7 節で、主イエスは、彼を裏切ろうとしていたユダを暴露しました。主イエスは、彼の周りにいるすべての人にとってテストでした。祭司長やパリサイ人は彼を殺す陰謀を企て、らい病の人シモンは彼のために自分の家を用意し、マルタは彼に仕え、ラザロは彼について証しをし、マリヤは彼を愛し(2-3 節)、ユダは彼を裏切ろうとし(4 節)、多くの人は彼の中へと信じました(11 節)。主は神のエコノミーの中心であり、神によって立てられたしるしです。彼に触れる者はだれでも、必ずテストされ、暴露されます。

私たちが召会生活の中で主を食べ、飲み、享受すると、私たちに安息と満足があります。また同時に、主は私たちをテストし、暴露します。例えば、あなたの心の中にある個人主義、罪深い思想、姦淫、高ぶり、自己あわれみ、怒りの爆発、党派心、分裂、ねたみ、泥酔などがあります。主は光であり、私たちの中のこれらの否定的なものを一つ一つ暴露していきます。私たちは、暴露された罪を隠さず、それを告白すべきです。

1 ヨハネ 1:7 しかし、神が光の中におられるように、私たちが光の中を歩くなら、私たちは互いに交わりを持ち、御子イエスの血が、すべての罪から私たちを清めます。

8 もし、自分には罪がないと言うなら、私たちは自分を欺いているのであって、真理は私たちの中にありません。

9 もし、私たちが自分の罪を告白するなら、神は信実で義であられるので、私たちの罪を赦し、すべての不義から私たちを清めてくださいます。

23 節の人の子としてのイエスが栄光を受けるとは、彼が復活されること、すなわち、彼の神聖な要素、彼の神聖な命が、彼の人性という殻の内側から解き放たれて、復活の中で多くの信者たちを生み出すことでした。それは、一粒の麦(24 節)が地に落ちて、その命の要素を解き放ち、地から成長して多くの実を結ぶ、すなわち、多くの穀粒を生み出すようにです。

40 節の盲目と心のかたくなさ、この二つは関係があります。それらは、不信の者たちに対する懲らしめです。私たちは、心の目が盲目にならないようにするために、心をかたくなにしないようにすべきです。

エペソ 4:17 …もはやあなたがたは、異邦人が彼らの思いのむなしさの中を歩くように、歩いてはなりません。

18 彼らは、理解することで暗くなり、彼らの中にある無知のゆえに、その心のかたくなさのゆえに、神の命から遠ざかり、